



いまと
新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2022.SPRING

NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No.

40

授業紹介 -教育の現場-

学生の活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

基金関係のお知らせ

Campus Information

特集 回り出した総合診療医の 循環型育成サイクル





Cover Photo

旭町キャンパス構内の「ヒボクラテスの木」。医学の父として知られるヒボクラテス(紀元前460~375頃)の生地であるギリシャ・コス島から持ち帰ったプラタナスの木の実から発芽したもので、ヒボクラテスはその親木の下で弟子達に医の教えを説いたとされる。幹は樹皮が剥がれモザイク模様になる。

特集

回り出した総合診療医の循環型育成サイクル



高齢社会の 医師に求められる 総合診療能力

より質の高い医療の提供や医学研究を行うために、専門分化・高度化が進む日本の医療。専門領域に特化した医師が、その分野でさらに知識と経験を深める一方で、専門外のケースには対応しにくいという点が課題になっている。高齢化はさらに進み、社会からの医療ニーズが変化していく中、専門を超える患者に対応できる「総合診療能力」を持つ医師の育成・確保が求められている。

このように医療を取り巻く状況の中、新潟大学医学部医学

科では、厚生労働省による公募事業『総合的な診療能力を持つ医師養成の推進事業』に応募。『新潟から総合診療医を育成する新たな挑戦』オール新潟体制での総合診療医育成コース【新潟方式】の確立(Niigata Training Methods for Generalist, NTMG)が採択されたことを受け、2020年12月、新潟大学医学部医学科総合診療学講座を開設した。

患者個人の複数疾患や生活上の課題もみることができる総合的な診療能力を持つ医師を養成するとともに、後進の育成に関する人材を継続的に輩出する「循環型」の医師育成サイクル構築を目指す。染矢俊幸医学部長に聞いた。

「人口当たりの医師数が少なく、いわゆる『医師不足』の新



新潟大学 染矢俊幸 医学部長

2022.SPRING No.40

CONTENTS

- 03 特集 回り出した総合診療医の循環型育成サイクル
- 08 授業紹介 -教育の現場-
- 09 学生の活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ
- 10 注目される研究報告
- 12 活躍する卒業生紹介 “学びの先”
- 13 教員によるコラム“知見と生活のあいだ”
- 14 基金関係のお知らせ
- 16 Campus Information

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザインしたものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

新潟大学SNS公式アカウント

- @niigata.univ
- @Niigata_Univ_O
- @niigata_university

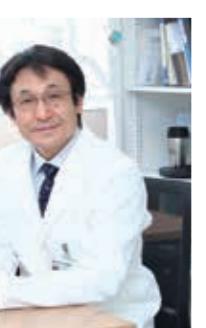
幅広い知識と 寄り添う気持ち 全人的な診療

「総合診療医」の明確な定義

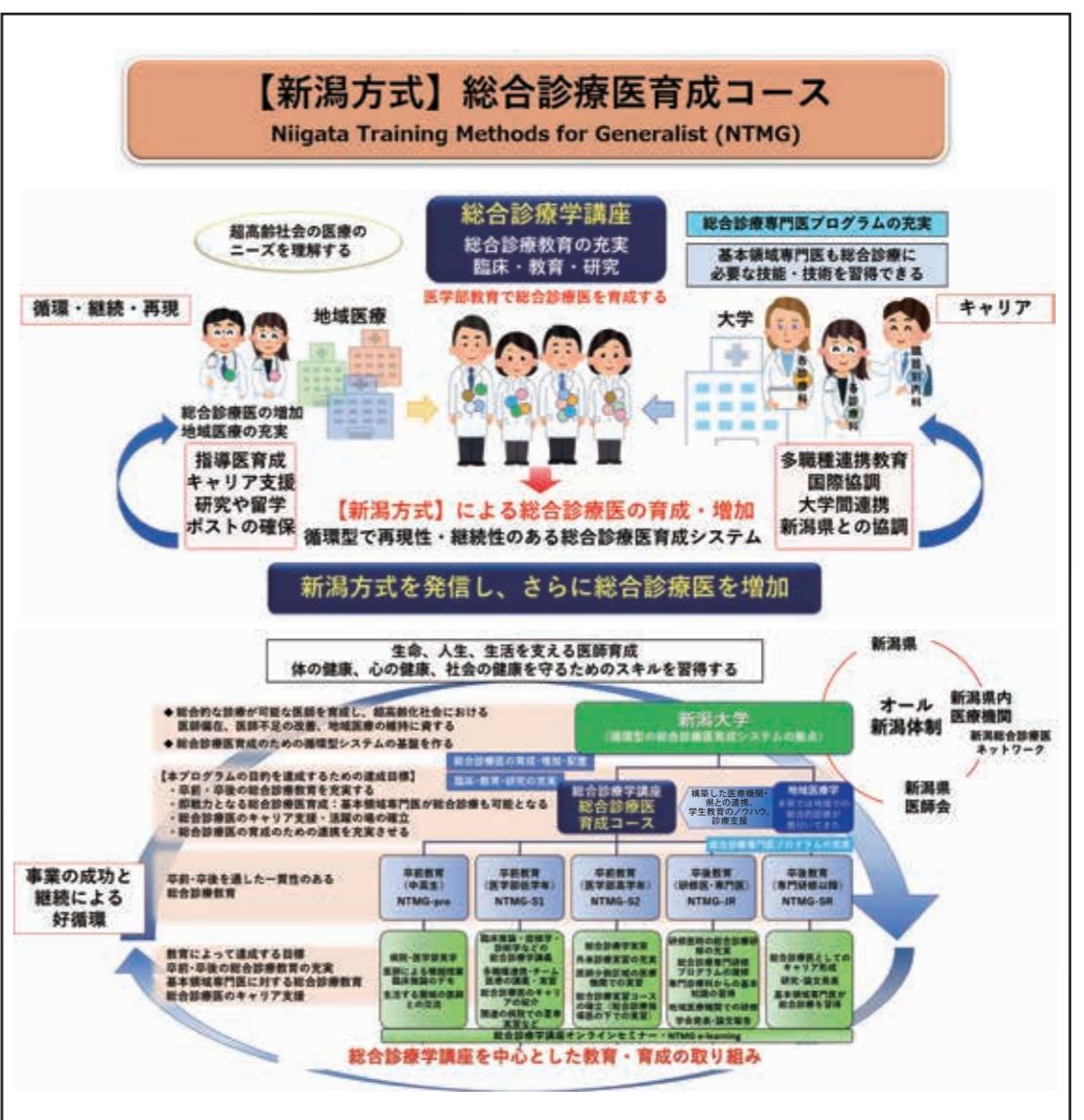
は難しく、そのイメージは医師の経験や働く環境によって異なる。一般的に認知されている地域医療や訪問診療に特化した医師の他、プライマリ・ケア認定医や病院総合医など関連する

医師も「総合診療医」が存在することで、全体としての定義が確立しにくい分野であった。2018年、新専門医制

る様々な専門医も「総合診療医」に含む場面がある。このようないに「狭義の総合診療医」が存在することで、全体としての定義が確立しにくい分野である。



総合診療学講座 上村顕也 特任教授



全身を診る幅広い医学的知識と 患者に寄り添う気持ちを持つ 全人的な診療を行える医師を育てる

循環型システムで 教育・研修の 地域医療に貢献

総合診療能力のベースを持ってる医師数が少なくても医療の初期対応が円滑に進むと考えます

総合診療医を継続的に育成することは、超高齢社会における医師偏在や医師不足の改善、地域医療の維持に貢献すれば、全般的に構築された教育・研修の循環型システムが、医育成コース「新潟方式」だ。これは、全般的に包括的な医療を提供し、複数臓器横断で基本的な全身診療が可能な医師を育てる新潟大学独自の取り組みだ。

新潟県とは2021年1月19日に「総合的な診療能力を持つ医師の養成等に係る新潟県と新潟大学医学部との協定」を締結。新潟県内のどこでも安心して医療を受けられる環

境づくりを進めるためには、総合的な診療能力を持つ医師の確保がより求められるという観点から、総合診療医の養成等に卒前から取り組むことについて協力する内容だ。また、同一年1月22日には講座のスタートアップシンポジウムを開催。110名を超える医師、学生の参加があり、その強い関心を感じる場となつた。引き続き、上村特任教授に聞

「新潟県には多くの地域医療を支えてきた医療機関や、総合診療の優れた指導能力を持つ先生方がたくさんおられて、患者さんの様々な疾患や症状、

社会的背景を含めて、すべてを受け止める総合的な診療を行う医療が、各コミュニティに付き、発展してきた歴史があります。そのような使命感の強い医師が多くいる土地で学ぶことは、医療人にとって非常に有意義であると考えています。そこで私たち新潟大学と新潟県、医師会というオール新潟体制で、総合診療学講座が中心になり卒前・卒後の一貫した教育を行います。総合診療医の育成、増加、配置、キャリア

すべき「総合診療医」とは、どのような能力を有する医師なのか。多様な能力を多次元的に伸ばしていく医師と捉えていました。そのような使命感の強い医師が多くいる土地で学ぶことは、医療人にとって非常に有意義であると考えています。

そこで私たち新潟大学と新潟県、医師会というオール新潟体制で、総合診療学講座が中心になり卒前・卒後の一貫した教育を行います。総合診療医の育成、増加、配置、キャリア

度が敷かれ、基本領域専門医に「総合診療」が加えられた。これにより内科医や小児科医、外科医などと同列に総合診療医が生まれることとなる。しかし、実際に開始された総合診療専門プログラムの希望者は全国で毎年200人弱。内

の希望者（3000人前後）と比較すると、圧倒的に少ないことが明らかであった。その理由は様々だが、アイデンティティ確立の困難さによるキャリアの不透明さもあると考えられる。

「総合診療医」という言葉の意味は広く、「内科医だが専門以外も診ている」という医師も含みます。私たちは総合診療専門医だけでなく、他領域の専門医であっても「患者個人の複数疾患や生活背景をも総合的に診る」「臓器や疾患そのものだけなく総合的に患者さんを診る」というスキルとマインドを持つ医師の育成を目指しています」と語るのは、総合診療学講座の上村顕也特任教授だ。

では、新潟大学医学部が育成すべき「総合診療医」とは、どのような能力を有する医師なのか。多様な能力を多次元的に伸ばしていく医師と捉えていました。そのような使命感の強い医師が多くいる土地で学ぶことは、医療人にとって非常に有意義であると考えています。



スタートアップシンポジウム



新潟県との協定調印式

新潟県の声



総合的な診療能力を持つ医師の養成・確保に連携して取り組みます

医師偏在指標によれば、新潟県は全国トップの医師不足県となっています。

医師確保に向けては、新潟大学医学部から地域枠を拡大していただくなどご尽力いただき、感謝しております。

新潟県 福祉保健部

松本晴樹 部長

県としても、医師確保に全力で取り組んでまいりますが、医師の数が確保できなければそれだけで良いということではないと考えております。

高齢化が進み、地域医療では、1人の高齢者が様々な疾患を抱えることは、ごく当たり前のことになっています。そうした中で、地域包括ケアシステムにおいて、医師が複数の疾患を抱える患者に対して、疾患の背景にあるような生活の課題、心理的、社会的な部分まで、総合的に診て、適切に診断を行い、必要な専門医に繋ぐことが重要となっており、そのためには総合的な診療能力を持つ医師を養成していくことが必要であり、大きな課題であると考えております。

このため、新潟県と新潟大学医学部は、令和3年1月に「総合的な診療能力を持つ医師の養成等に係る協定」を締結し、これらの医師の卒前からの養成及び確保等に取り組んでいるところです。

医師を養成する大学側と、行政を担う県、地域も上手に巻き込み、3者が連携しながら、県内のどこに住んでいても安心して医療を受けられるような環境づくりを進めてまいりたいと考えており、引き続き、一緒に取り組んでまいります。

医学部生の声

様々な視点から
病気を考えていく習慣を身につける場

私は長岡中央総合病院で実習させていただきました。病棟実習、救急外来実習、当直実習を経験しましたが、外来実習が最も印象的でした。外来実習では問診を行い、カルテを書くこともあります。

カルテの書き方は座学で習いましたが、実際に使う機会は少なく、私は苦手意識がありました。しかし、今回の実習では患者さんのご協

力でたくさんの経験をさせていただき、とても自信がつきました。患者さんからお話を聞き、診察し、その上で必要な検査を考えていくという、医師として非常に大切なことを実際に経験することができました。おなかが痛いと聞くと、一般的に胃や腸の病気を考えると思いますが、その他にも心臓や血管、腎臓、泌尿器、女性の場合は婦人科の病気、また、腹部の筋肉や神経の病気の可能性も考えられます。総合診療学講座が多くの中学生にとって、様々な視点から病気を考えていく習慣を身につける場になったら良いと思います。実習先で、私を指導してくださった先生方は、患者さんに寄り添って問診や診察を行い、とても良好な関係を築かれていました。私もそんな姿を見習い、患者さんにとって一番だと思える医療を提供していきたいです。

医学部医学科6年(※編集時)
堀 真瑛さん

新潟大学の使命
社会を守る
新潟の医療を支え

分はなぜ医者になりたいと思ったのか」という問い合わせに対する根源的な理由があるように思いました。このタイミングで基本に立ち返ることは非常に重要なことです。このタイミングで基本に立ち返ることは非常に重要なことです。このタイミングで基本に立ち返ることは非常に重要なことです。このタイミングで基本に立ち返ることは非常に重要なことです。

注目される研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究課題 他都市の災害の対応経験を追体験する仕組み

リアルな体験をデジタルに置き換える 災害・対応シナリオの空間的展開ツールの開発

新潟大学では、新潟・福島豪雨(2004年)や中越(2004年)・中越沖(2007年)地震の経験から、危機への対応・防止について、平時より検討を行い、関係部署と連絡・調整する組織として、「危機管理本部」を常時設置し、五十嵐・旭町の両キャンパスに1名ずつ専任教員を配置している。

私は、地震・津波・豪雪等の自然災害への対応を社会科学的側面から研究しています。危機管理室においては、危機管理計画(2007年)等の計画策定や訓練実施を行っています。

田村圭子教授が危機管理・災害研究に取り組んだきっかけは、自身の故郷

が阪神淡路大震災で大きな被害を受けたことに端を発する。大学卒業後、社会人経験を経て「災害時に自分にできることは何か」との思いから、大学院へ入学。研究者の道に進んだ。

災害発生時に問題となるのが、対応する行政職員が具体的に災害対応の業務イメージを持っていないことだ。田村教授は災害対応DXなどのICT技術を活用し、他の自治体の災害対応を別の地域で、訓練として経験できるデジタルツールの試行版を開発。2021年には大阪府北部地震(2018年)による大阪府茨木市のデータを集積し、神奈川県川崎市で同規模の地震が起きたときの災害・被害シナリオを作成した。地震被害と茨木市の実際の対応を、川崎市の地理空間上に展開・可視化。川崎市職員の忙しさが当時の茨木市の職員の忙しさと同程度になるようチューニングし、訓練を実施した。

被害想定に基づく従来シナリオと違い、他自治体の実際の災害対応記録から構築したシナリオを使った訓練は、職員の対応力や経験の継承につながると同時に、茨木市とは都市の規模や特徴が異なる川崎市ならではの課題も明らかにした。

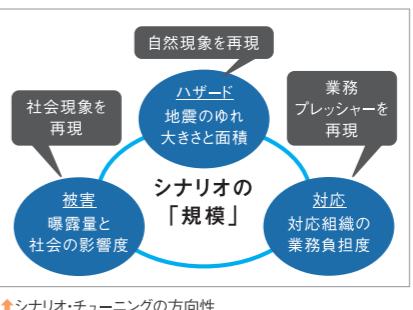
「過去の災害が、自分の自治体で空間的に展開されることで、リアルな仮想体験が可能に。これまで、実災害の被害や対応の記録を残すことで、被災自治体自身が次の災害への反省点を見つけてきました。ICT技術『デジタルツイン』(現実の世界にあるものを仮想空間に再現する技術)が進んだ現在では、その記録を活用すれば、全国の自治体において、追体験することが技術的に可能です。本仕組みの全国展開を目指しています」(官民研究開発投資拡大プログラム・PRISMにおける研究プロジェクト)

田村圭子教授が危機管理・災害研究に取り組んだきっかけは、自身の故郷



危機管理本部危機管理室
田村圭子 教授

Profile | 博士(情報学)。専門は危機管理・災害福祉。新潟県・新潟市の防災会議委員も務める。平成30年度「防災功労者防災担当大臣表彰」受賞。



大阪府北部地震による茨木市の被災対応データを集積
川崎市 災害対策本部

2021年1月に実施した川崎市の訓練。状況付与と訓練対応をオンラインで共有した

研究課題 海岸林の多様な生態系と温暖化を見据えた次世代の森づくり

海岸林の遷移とその背景を解明し多様性の高い森づくりを目指す



農学部
中田 誠 教授

Profile | 農学博士。専門は森林生態学。森林の生物とそれを取り巻く環境との関係を、フィールド調査を基盤に多様な視点から研究。

海岸沿いの居住地や農地を飛砂や潮風から守るなど、生活環境の保全において様々な役割を担う海岸林。その主要樹種がクロマツで、新潟でも各所でクロマツ林が造成されている。しかし、近年はマツ枯れ被害や植生遷移により、海岸林の様相が変化をみせている。中田誠教授は、海岸林の生態系と環境との相互関係について研究を進め、クロマツ林の維持や、新たな海岸林造成に取り組む。

「松くい虫によるマツ枯れ被害が深刻化する一方で、新潟市の海岸林ではクロマツ以外の樹種、特に常緑広葉樹が多く確認されています。なぜそれら

が自然に生育しているのか、そして昨今の気候変動が生態系に与える影響について、あらゆる角度からアプローチしています」

研究では海岸林の植生調査や樹木の生育特性、野鳥の生態調査などを学生とともに実施。常緑広葉樹の自然侵入の背景には野鳥が関係し、地球温暖化が植生遷移を加速させていることを明らかにした。

「鳥類標識調査を行っている野鳥の会の方々と協力して野鳥の食べ物を調べました。その結果、住宅地の庭などに植えられた樹木の実を野鳥が食べ、糞とともに種子をクロマツ林内に落とすことで、多様な樹木や低木が生育していることが分かりました。また、確認された常緑広葉樹の約2/3の樹種が本来は新潟県では分布していないものでした。温暖化によって、これまで生育が困難だった暖地性の樹種が定着して群落を形成したと推測できます。常緑広葉樹は今後も良好な成長が見込まれるため、これを活かした海岸林造成を進めいくべきだと考えています」

新潟市で松くい虫被害が確認されるようになって以降、薬剤を使った対策や植



枯れたクロマツ



新潟市内の海岸林で調査をする中田教授



海岸クロマツ林の再造造成(新潟市西区)



様々な常緑広葉樹が生育する海岸林

志望業界、企業で働く先輩に質問したい!

会社の中の様子について知りたい!

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ!

CANシステム

卒業生と学生をつなぐ CANシステム

CANシステムとはWeb上のシステムを介して、学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていくいただくシステムです。社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください!

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています!

お問い合わせ先 新潟大学キャンパスライフ支援センター・キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学キャンパスライフ支援センター・キャリア・就職支援オフィス

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ!

CANシステム

卒業生と学生をつなぐ CANシステム

CANシステムとはWeb上のシステムを介して、学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていくいただくシステムです。社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください!

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています!

お問い合わせ先 新潟大学キャンパスライフ支援センター・キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

企業の技術向上を目指す産学官交流ネットワーク 新潟大学産学連携協力会

新潟大学地域創生推進機構と産業界等が密接に連携し、産業の活性化、高度化、地域社会の発展を目的に技術の向上及び地域連携を図ります。

詳しくお知りになりたい方、加入ご希望の方は、ホームページをご覧ください。

新潟大学産学連携協力会 URL https://www.ircp.niigata-u.ac.jp/kyouryokukai/ 検索



主な事業

講演会

セミナー

研修会

技術相談

など

トピックス

「新潟大学×READYFOR」クラウドファンディングプロジェクトを開始しました

本学は、日本初・国内最大級のクラウドファンディングサービス「READYFOR」を運営するREADYFOR株式会社と研究費用等獲得を目的としたクラウドファンディング活用に関する業務提携を締結しました。

大学を取り巻く環境が日々変わっていく中、異なる教育・研究・社会貢献の活性化のために、国からの運営費交付金や競争的資金に加えて、様々な形での資金獲得が重要になってきております。

クラウドファンディングを活用することで、各研究室の活動や大学の設備投資などに対する「外部資金・寄附金の獲得の機会」が拡がります。

READYFOR株式会社が業務提携を結んだ大学は、本学で41校目となります。

2月17日には、締結後初となるクラウドファンディングプロジェクトを4件同時公開し、併せてREADYFOR株式会社と合同で記者会見を行いました。

記者会見では、プロジェクト実施責任者の教員から研究に対する熱い思いが語られ、なぜこの世の中にこの研究プロジェクトが必要か、なぜ資金調達をしなければならないかなどの熱い思いが語されました。

また、本学では同日に「クラウドファンディング特設サイト」を公開し、本学が行っているクラウドファンディング事業がどのようなものかや達成状況などが一目でわかるページを作成しましたので、ご興味のある方は是非ともご覧ください。

皆さまからの温かいご支援を、何卒よろしくお願ひいたします。

〈READYFOR株式会社からのメッセージ〉

2011年に日本初のクラウドファンディング(以下CF)としてREADYFORがサービスを開始してから、11年が経過しました。これまでに個人、企業、NPO法人などさまざまな方がCFに挑戦をされてきましたが、「大学」によるCF活用も近年増加しています。READYFORが携わってきた大学プロジェクト全ての寄附金額を合算すると、約13億円という規模まで拡大しており、同カテゴリーのプロジェクトの約90%が目標金額を上回っている状況です。

なぜ、これほどまでに大学CFへの関心が高まっているのでしょうか。それは、研究者にとってのメリットと、大学事務局にとってのメリットがそれぞれあるからだと感じています。

研究者にとってのメリットは、奨学寄附金の減少、競争的資金の獲得が難しい、もしくは獲得できるかわからないという状況の中、CFが資金調達の1つの手段になり、さらに想いの乗ったお金を集めることができます。

プロジェクトを成功に導くためには、多くの広報施策や戦略を練って行動する必要がありますが、「この必死な思いをしたからこそ、研究助成金で獲得したものと比べると、全く違う重みがある」と話される研究者も少なくありません。

またREADYFORでは、寄附者全員からの応援コメントがページ上に記載される仕組みになっています。集まった応援コメントをみて「集まった寄附金からは、支援者の思いが見える。そして、本プロジェクトを遂行する上でサポートくださった皆様の顔が見える。この経験は私の研究費に対する価値観を変えるものでさえあった。」という感想をいただいたこともあります。

次に大学事務局側、例えば基金室やセンター連携推進室など、寄附金額の向上を目指している部署のメリットは、CF1つのプロジェクトで、個人や法人からの寄附を数百～数千人から集める可能性を秘めています。CFを入口に、大学へOB・OGの方から寄附をしてもらうきっかけを作ることにも繋がります。

CFから始まり、その後も寄附者とコミュニケーションを取り続けることによって、大学本部に対する寄附に繋がる可能性も秘めていることは、運営費交付金が減少傾向にある昨今で、財務基盤をより強固にする有益な手段になりうるのではないかでしょうか。

CFは決して「魔法の杖」や「打出の小槌」ではありません。寄附や支援を得るために相応の工夫は必要ですが、「想いの乗ったお金」が集まっています。激動の現代において、こうした新たな手段を活用いただくことで、新潟大学が更なる「世界の発展に資する知の拠点」となり、「自律と創生」を体現する一助になれば幸いです。

**あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ**

詳しい資料をお送りいたしますので、お問い合わせ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

お問い合わせ先 新潟大学センター連携推進室 TEL 025-262-5651・6010・6356 E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp
H P https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/



記者会見の様子



READYFOR株式会社 キュレーター事業部
医療チーム リードキュレーター 金久保 智哉



〈特設サイトURL〉
<https://www.cf.nu.niigata-u.ac.jp/>

ー学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、修学支援事業を行います。

令和2年度からは、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」及び「新潟大学学業成績優秀者奨学金」の支援に加え、「新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージ」により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿 (R3.12～R4.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉 浅岡 敏明 上松 正次 内田 博 大貫 俊二 大林 直人 岡村 隆行 片平 邦昭 金子 峰 栗加 哲郎
竹内 則夫 田代 文俊 芳賀 利允 樋口 英嗣 星 祥彦 三浦 淳 宮崎 聰 山崎 秀
吉田 滋

〈団体〉 吉川化工株式会社 久保誠電気興業株式会社 株式会社景 株式会社中越加工 ナミックス株式会社

～優秀な大学院生の研究を応援～ 新潟大学研究等支援基金

■目的 学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。令和4年1月に創設し、「新潟大学フェローシップ支援」「未来のライフイノベーションを創出するフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿 (R4.1～R4.2寄附入金分)

〈団体〉 ナミックス株式会社

新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿 (R3.12～R4.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉 阿部 洋一 新井 郁哉 新川 恒夫 五十嵐 友子 石井 郁夫 石井 恵子 石田 武裕 猪俣 博 上松 正次	大河 正志 逢坂 寛人 大畑 登代 岡村 隆行 片平 邦昭 勝井 丈美 金子 峰 上村 栄二 川上 美幸	神田 敏行 木村 喜恵子 幸田 雅人 小海 松男 斎藤 龍也 斎藤 秀俊 坂下 五雄 相良 駿太 佐々木 晋	佐藤 栄子 佐藤 正道 志賀 義雄 芝井 太郎 清水 利彦 白井 哲也 鈴木 輝雄 鈴木 英男 高橋 栄明	滝澤 哲也 澤本 哲也 田口 有理 田口 佳成 田邊 秀樹 所 洋平 直井 陽子 永井 博子 西村 瑞枝	野本 隆宏 芳賀 利允 樋口 英嗣 樋口 毒宏 廣瀬 保夫 福田 健 堀 欣一 松永 秀一 松村 博雄	水落 育一 武藤 亜紗子 村山 明 森川 政嗣 柳本 雄司 山崎 秀 湯田 求 米岡 有一郎	米山 豊 和田 肖子	
〈団体〉 株式会社愛ケア新潟民間急救 株式会社ソーゴ 共和工業株式会社 株式会社第一測範製作所 株式会社新潟ケンペイ	吉川化工株式会社 ナミックス株式会社 新潟大学生活協同組合 三星金属工業株式会社 久保誠電気興業株式会社 新潟ソロブチミスト新潟-西	はじめのいっぽ	はじめのいっぽ	新潟メスキード株式会社 新潟ロイヤルライオンズクラブ	新潟ロイヤルライオンズクラブ	株式会社新潟セイキ	株式会社長生園	日本ペアリング株式会社

匿名希望87名
匿名希望87名

株式会社新潟セイキ
株式会社長生園

日本ペアリング株式会社

匿名希望7団体

新潟大学センター連携推進室

■目的 繼続して新潟大学を支援するため、センター連携推進室の年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。
また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

■寄附者名簿 (R3.12～R4.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

【新規】〈個人〉 磯部 利行 上田 英明 駒村 繁 根本 昌幸 深瀧 信夫 匿名希望3名	株式会社アサヒアレックスホールディングス株式会社 株式会社イーエムエス新潟 國際ソロブチミスト新潟-西	株式会社シーキューブ 積水ハウス株式会社新潟支店 高倉産業株式会社	一般社団法人新潟県労働衛生医学協会 株式会社新潟文化自動車学校 株式会社マコト精機	株式会社小嶋屋總本店 高野不動産株式会社	株式会社ミヤトウ野草研究所
〈団体〉 はじめのいっぽ	三星金属工業株式会社	はじめのいっぽ	はじめのいっぽ	はじめのいっぽ	はじめのいっぽ

【更新】〈個人〉 渋谷 敏幸 匿名希望1名

〈団体〉 株式会社アルコン 一般財団法人健康医学予防協会 三和ボーリング株式会社 中越クリーンサービス株式会社 日本シェイムケイ株式会社 松井建設株式会社北陸支店	株式会社エヌエフシー新潟 株式会社興和 CEC新潟情報サービス株式会社 株式会社巴山組 株式会社バイオニア 水澤電機株式会社	株式会社エヌエフシー新潟 小林事務機株式会社 株式会社ジオックス 株式会社ナルサワコンサルタント 株式会社ビーアールシー 三星工業株式会社	株式会社エヌエフシー新潟 小林事務機株式会社 株式会社ジオックス 株式会社ナルサワコンサルタント 株式会社ビーアールシー 三星工業株式会社	株式会社熊谷 第一生命保険株式会社新潟支社 日本海エル・エヌ・ジー株式会社 藤田金屬株式会社	株式会社熊谷 第一生命保険株式会社新潟支社 日本海エル・エヌ・ジー株式会社 藤田金屬株式会社
---	--	---	---	--	--

最新の会員名簿は、右記のURLからご覧いただけます。 <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/>

新潟大学古本募金

■目的 皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただくと、その査定額が新潟大学に寄附されます。
寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられます。

■寄附者 (R3.12～R4.2寄附入金分) 〈個人〉 9名 〈団体〉 5団体

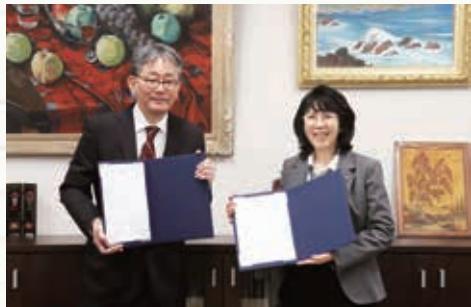
遺贈によるご寄附

■遺贈とは 遺言により、ご自分の築き上げられた財産を特定の方々に寄附することを遺贈といいます。この方法で所有しておられる資産の一部を、新潟大学に遺贈したいとお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行と提携し、その手続きの便宜を図るものであります。
遺贈による寄附のご利用を希望される場合やご不明な点がある場合は、次頁下のお問い合わせ先へお問い合わせください。

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

経済科学部が開志専門職大学アニメ・マンガ学部と学術交流協定を締結しました



本学経済科学部は、開志専門職大学アニメ・マンガ学部と2022年3月22日に学術交流協定を締結しました。両学部は、これまでアニメ・アーカイブ研究を中心とした学術交流を発展させてきましたが、アニメ中間素材の保管・分析・活用に関する共同研究を活性化し、アニメ・アーカイブ研究拠点を新潟市に築くために、このたびの正式な学術交流協定締結に至ったものです。当日は、本学経済科学部長室で調印式が執り行われ、両学部関係者出席のもと、山崎剛志経済科学部長と神村幸子アニメ・マンガ学部長が協定書に署名を行いました。この協定に基づき、両学部の学術交流が今後ますます発展することが期待されます。

卒業式及び入学式を3年ぶりに全学合同で挙行しました



令和3年度卒業式



令和4年度入学式

本学では、全学部・大学院研究科、養護教諭特別別科合同で令和3年度卒業式を2022年3月23日に、令和4年度入学式を同年4月4日に新潟市中央区の朱鷺メッセにおいて挙行しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年及び一昨年は全学での開催を見合わせたため、全学合同での開催は3年ぶりとなりました。なお、当日は、参加を卒業生、入学生及び式典関係者のみに限定し、ご家族等向けに式の模様を YouTube でライブ配信しました。

アジア連携研究センター銘板上掲式を挙行しました

本学では、五十嵐キャンパス人文社会科学系棟にて、2022年4月1日にアジア連携研究センター銘板上掲式を挙行しました。2018年10月に発足した環東アジア研究センターを母体として、成長著しいアジア地域を東アジアに限定することなく広く見渡し、学内外の研究者と今まで以上に協力関係を構築するため、2022年4月、アジア連携研究センターという名称で新たにスタートしたものです。センターでは、アジアを基点に世界に開かれた「知のゲートウェイ」の役割を推進するという新潟大学将来ビジョン2030に基づき、研究・人材育成・情報発信に努めて、アジア地域のより良い未来の実現に貢献したいと考えています。式では、牛木辰男学長、白石典之アジア連携研究センター長の挨拶の後、銘板の除幕が行われ、新センターのスタートとなりました。

